

第 10 回農山漁村コミュニティビジネスセミナー 「特別編 2」

「事例から学ぶ農山漁村の地域活性化」

地域に飛び出せ！信州元気づくり実践塾 特別セミナー
開催結果報告

●開催プログラム

1. 日 時：2014年10月15日（水）14：30～17：30

2. 場 所：東京都千代田区神田東松下町 45 神田金子ビル 5F
（一財）都市農山漁村交流活性化機構 （まちむら交流きこう）会議室

3. テーマ：「事例から学ぶ農山漁村の地域活性化」

全国各地の農山漁村地域では、地域住民主体による地域活性化の取組が進められています。これまでは、行政主体の取組が中心を占めておりましたが、市町村合併や行財政改革などにより、NPO、地域づくり団体、あるいは都市からのボランティア組織などによる、多種多様な担い手による農山漁村地域の再生の活動が展開されています。

都市と共生・対流の国民運動（オーライ！ニッポン）の優れた事例から農林漁業体験・農村漁村での生活体験を活用して、どのように都市生活者に高い満足度を与えているのか、またそのことによる地域活性化にどう貢献しているか「農山漁村の地域活性化」事例を紹介します。

また、都市生活者のニーズに応えた体験プログラムを作るために、都市農村交流についてのワールドカフェスタイルで参加者と一緒に考えます。

4. プログラム

14:30～14:40

主催者挨拶 都市農山漁村交流活性化機構（まちむら交流きこう）
山野 昭二 専務理事

14:40～17:20

①講義 事例から学ぶ農山漁村の地域活性化

都市農山漁村交流活性化機構 地域活性化チーム 茅原裕昭

②都市農村交流についてのワールド・カフェ

17:30～ 閉会

① 講義 「農山漁村の地域活性化」

農山漁村の地域活性化は、かつて行政主体による取組が中心でした。それが市町村合併、第3セクター等の整理統合、事業仕訳等の事業の高効率化によって、NPOや地域住民等による取り組みが中心になってきています。

こうした住民主体による、都市と農山漁村の交流事業についてオーライ!ニッポン大賞の受賞等から地域活性化の目的、手法とその効果を紹介します。

【紹介事例】

- ・地域産業の衰退と地域の活力低下に危機感をもった立ち上がった女性たち
- ・町からの指定管理料0円。それでも私達が掲げる目標は「サービス世界一」
- ・廃校となった小学校を宿泊型体験学習施設に再生
- ・地域づくりの活力源は「人」である、を信念に、子どもから老人まで集落ぐるみによる「行政に頼らないむらづくり」を実践
- ・交流人口創出により雇用創出にも貢献、農家収益も確保など地域資源を活かしたコミュニティ・ビジネス事例
- ・その他

② 都市農村交流についてのワールド・カフェ

ワールド・カフェの手法を用いて、今日の講座から連想されるアイデアやお互いの想いを対話します。

ワールド・カフェとは、ハチが花々を移るように、4～5人で1つのテーブルを囲み、テーマについてそれぞれの思いを対話し、設定した時間が来るとテーブルに1人を残して別のテーブルに移動し対話を再開、それぞれのテーブルでの対話を共有し、多様な視点で議論をより高い次元へと上げて行きます。そして、集合的発見を収穫するものです。

※ 今回のワールド・カフェのテーマ

「もし、私が長野県知事だったら、こんな都市農村交流を行う！」

1. 主催者挨拶 都市農山漁村交流活性化機構 山野専務理事



2. 講義 「農山漁村の地域活性化」

都市農山漁村交流活性化機構 地域活性化チーム
兼 オーライ！ニッポン会議事務局長 茅原裕昭



3. 都市農村交流についてのワールド・カフェの実施

※ 今回のワールド・カフェのテーマ

「もし、私が長野県知事だったら、こんな都市農村交流を行う！」



都市農村交流についての ワールドカフェの進め方

ワールド・カフェの手法を用いて、
今日の講座から連想されるアイデアや
お互いの想いを対話しましょう。

ワールド・カフェって何？

- ▶ ワールド・カフェとは、ハチが花々を移るように、4～5人で1つのテーブルを囲み、テーマについてそれぞれの思いを対話します。
- ▶ 設定した時間が来るとテーブルに1人を残して別のテーブルに移動し対話を再開します。
- ▶ それぞれのテーブルでの対話を共有し、多様な視点で議論をより高い次元へと上げて行きます。
- ▶ そして、集合的発見を収穫するものです。

進めるための簡単なルール

- ▶ 最初に、簡単に自己紹介を行います。
- ▶ 誰から話してもかまいません。
- ▶ 意見を話す人は、手にトーキングオブジェクト (TO) を持って話しをします。
- ▶ つまりは話す人は、常に一人です。
- ▶ 話を終わったら、次に話をする人に、TOを渡してあげてください。
- ▶ 気になった言葉、参考になる意見などを適宜、模造紙に自由にメモしていただいて結構です。

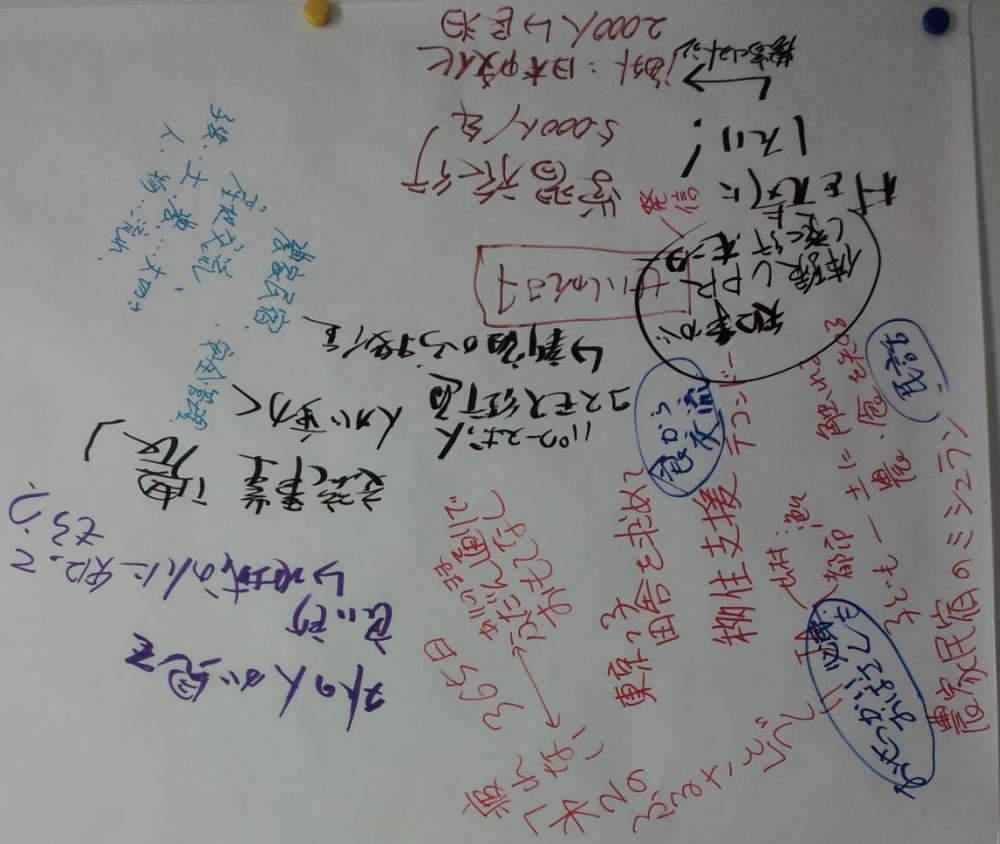
- ▶ 自分と意見が異なっても否定せず、意見を受け止めてください。
- ▶ 異なる意見を知ることも新たな気づきの出発になります。
- ▶ 時間が来ましたら、私が手を挙げます。気づいたら同じように手を挙げてください。
- ▶ 全員の手が上がったら、一端セッションを終了します。
- ▶ そして、次のセッションのために、どなたか一人を残して、次の島に移動します。
- ▶ 残った方は、次のセッションの冒頭、この島で話された概要を簡単にご紹介ください。

[illegible]

都市農村交流の多岐性

倍増「おれ、おれ、おれ」
自然栽培、外産品

後継者
おれ、おれ、おれ
おれ、おれ



4. 閉会の挨拶

農業生産法人 株式会社 信州せいしゅん村 むらおさ 小林 一郎



5. 都市農村交流コミュニティーセミナー

都市農村交流について「ワールド・カフェ」アンケート結果

1. 今日、どんな気づきがありましたか？

- みなさん、いろいろな視点からアイディアがあり、一人で考えるよりもみんなで考える
とアイディアが磨かれてより良いものになると思った。
- 皆で話し合う事、大変参考になりました。これからの活動に役立ちます。
- 誰もが多くの悩みを持っている。
- 自分の中にいろいろな迷いがたくさんあるのに気付いた。
- 少子化にもシャッフル（交流）で活路ができるかもしれない。
- 各々、一生懸命に考えていることがあり、こういう機会がないと知ることができないと
いうこと。
- 世代の異なる方と農村交流についてお話でき勉強になりました。
- 各地域の考えていくべき問題など改めて考えさせられた。



ただ、これをうまく活用できるのではないかと考えさせられた。

- 選ばれる理由をどう打ち出すのか？発見するための工夫が必要。
- いろいろな意見・考えがありましたが共通する根っこは同じではないか？
- 「交流」とは、流れが交わること。一方通行はありえない。
地方は都会にないものを提供してあげるのであって下の立場ではない。
都会はお金しかない。と私は考えます。
- 都市農村交流ばかりでなく、地域内交流が不足している。
- 現状の受け止め方が違う。



2. 一番、印象に残ったこと（キーワード）はどんなことでしたか？

- 都市といっても東京圏だけでなく、身近な地方都市にも目を向ければいいんだと。
- 里山交流…普段着の交流
- 外来種の問題。長野県は自然が目玉。松くい、荒地売り
- おせっかいおばさん
- シャッフル（交流）
- お節介おばさん
- お節介おばさんのような人との間に入る調整役が必要という案が面白かった。
- 都市のひとと農村のひとの求めること『ニーズ』を知ることが大切。
- 「対等」「地域内交流」
- 交流とは？人と人をつなぐ！
- 人は減るけど、農地は減らない。
- 交流は一方通行ではダメ。相互交流。
- 前進する力をつける。



3. その他、良かったこと、残念だったこと、質問など自由にご記入ください。

- 民宿の許可が県によって厳しさが違うなど、より具体的な知識を教えていただいた。
もっと時間があれば、それぞれ詳しくお話が聞きたかった。
- 各地区の人との交流、考え方、手法
- 子供たちのシャッフル。近い他校、都市学校へのシャッフル。
- こういったワールド・カフェなどを気のすむまでできる場があったらいいな〜と。
- 時間が少なかった。
- ワールド・カフェの形式が面白かった。
- 自分の地域の問題についてまだまだ知らないことが多い気がした。
- いろいろな切り口に触れられたこと。
- 時間がもう少しあれば良かった。
- ワールド・カフェのスタイルでいろいろな意見が聞けた。

